

歩行者の通り抜け空間に見られる空間的特性

- 中心市街地における歩行者の回遊行動誘発空間に関する研究 -

正会員 ○東郷 哲史* 清水 弘樹*
同 姫野 由香** 佐藤 誠治***商業街路 回遊行動 路地
通り抜け

1. 研究の背景と目的

全国各地で中心市街地の衰退が問題視されてから久しく、商店街空間の研究や、交通や政策の諸問題等、多岐にわたる研究が行われているものの、都市としての魅力創出を目的とした中心市街地全体の空間づくりに関する研究はあまり見られない。都市の魅力の重要な要因のひとつに「歩く楽しみ」があり、主たる目的は持たなくとも時間を消費できる空間づくりには、商店街や核店舗といった線や点を単体として考えるのではなく、一体的な空間として捕らえることが重要不可欠である。そこで本研究では、歩行者の回遊行動を誘発する空間として、「通り抜け空間」に注目する。本報では対象地域に分布する通り抜け空間の概況を総合的に把握するため、形状により類型化する。そしてその類型の特徴を通り抜け空間を構成する通りの性質や空間構成要素等から明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究では、大分県別府市中心市街地を研究対象とする。対象地域は、2008年7月に認定された中心市街地活性化基本計画に定められる中心市街地の範囲内とし、特に住宅、商店が密集している図1の部分とした。

対象地域で抽出された通り抜け空間を精査し、得られた空間構成要素のデータから、通り抜け空間を形状により類型化した。そして、その類型の特徴を可動要素¹⁾の要素の分布や建物用途等により明らかにする。

3. 通り抜け空間の定義

本研究の対象となる「通り抜け空間」を以下のとおり定義する。通り抜け空間とは車道または商店街路に囲まれた街区を貫く「空間」であり、①自動車が通り抜けることのできない空間とする。また、②建物内を通り抜けることができる通路や、街区を貫くという意味で③駐車場も通り抜け空間として抽出した。研究対象地域における通り抜け空間は23(A~W)抽出することができた(図1)。

4. 通り抜け空間の類型

抽出されている通り抜け空間を交差点の数により分類した。その結果「交差点無し型」「交差点①型」「交差点②型」「交差点多数型」の4つに類型化することができ、表1に類型ごとの全長、パス²⁾数、可動要素の数、建物用途の平均と合計、そして店舗分布状況³⁾を示す。

「交差点無し型」では店舗分布状況が58%を示している

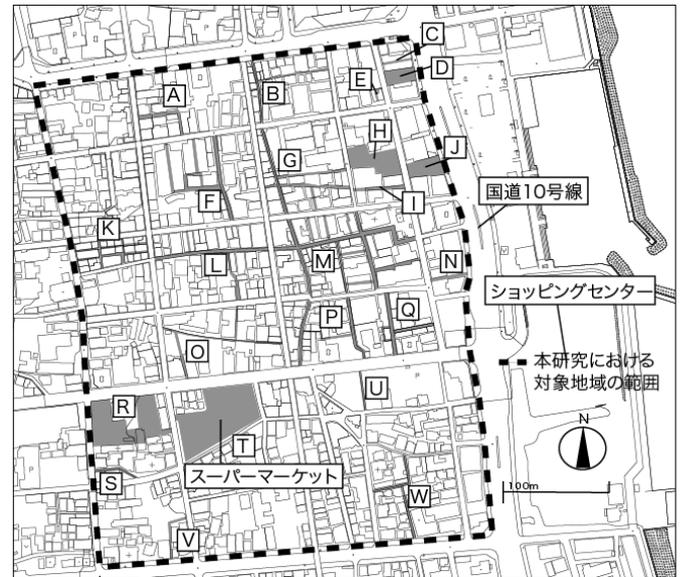


図1 研究対象地域と抽出した通り抜け空間

ものの、営業要素の分布が0.08と低く、店舗が存在しても店の前に何も置かない店舗あることがわかる。

「交差点①型」は店舗分布状況が0%を示し営業、秩序、休憩要素が分布していなかった。分布していない要素が見られるのはこの類型だけであり、可動要素自体が他に比べ少ない。

「交差点②型」では店舗分布状況が73%を示し、最も多い要素は植栽要素である。次いで設備要素も多いことから、建物内部の機能の補完の傾向があることがわかる。

「交差点多数型」では全ての要素が他の類型よりも高い値を示しており、特に荷物要素においては他の類型に比べ10倍近く差があり、荷物の保存の空間として機能している通り抜け空間が多いことがわかる。

可動要素との関係から、交差点が増え、通り抜け空間が複雑になるほど、設備、荷物要素の値が増えており、通り抜け空間は建物内部の機能の補完、荷物の保存の空間として機能していることがわかった。

5. 総括

本研究では、研究対象地域における通り抜け空間を精査し得たデータを基に、通り抜け空間を形状により類型化を行い、特徴を把握した。今後は通り抜け空間の評価実

表 1 通り抜け空間の類型と要素分布の傾向

類型	交差点無し型		交差点①型		交差点②型		交差点多数型		
模式図									
通り抜け空間	A、C、D、E、H、I、J、N、S、T、U、V		R、W		B、L、O、P		F、G、K、M、Q		
	平均	合計	平均	合計	平均	合計	平均	合計	
全長(m)	44.40	532.85	110.32	220.64	167.61	670.42	271.39	1356.74	
バス(本)	路地	0.50	6.00	1.50	3.00	4.75	19.00	9.40	47.00
	通路	0.25	3.00	-	-	0.25	1.00	2.00	10.00
	駐車場	0.25	3.00	1.50	3.00	-	-	-	-
可動要素(個)	営業要素	0.08	1.00	-	-	3.50	14.00	6.20	31.00
	設備要素	2.33	28.00	0.50	1.00	11.75	47.00	18.40	92.00
	移動要素	0.67	8.00	3.00	6.00	3.75	15.00	11.20	56.00
	荷物要素	1.17	14.00	1.50	3.00	2.50	10.00	23.60	118.00
	秩序要素	0.06	1.00	-	-	1.75	7.00	3.40	17.00
	休憩要素	0.25	3.00	-	-	0.25	1.00	0.40	2.00
	植栽要素	10.83	180.00	3.00	6.00	36.00	144.00	69.80	49.00
建物用途(戸)	物販(物)	-	-	-	-	-	-	-	-
	物販(食)	-	-	-	-	-	-	0.20	1.00
	サービス	-	-	-	-	-	-	0.40	2.00
	ホテル・旅館	0.08	1.00	-	-	-	-	0.20	1.00
	娯楽・遊戯施設	-	-	-	-	-	-	0.40	2.00
	料飲	1.25	15.00	-	-	3.00	12.00	16.20	81.00
	飲食	0.08	1.00	-	-	2.00	8.00	3.20	16.00
	共同浴場	-	-	-	-	0.25	1.00	-	-
	住宅	1.00	12.00	5.50	11.00	4.50	18.00	7.80	39.00
	風俗	-	-	-	-	2.75	7.00	1.20	6.00
	理・美容	-	-	-	-	0.25	1.00	-	-
	駐車場	-	-	-	-	0.25	1.00	0.40	2.00
	その他	-	-	-	-	-	-	2.00	10.00
空き地	0.08	1.00	-	-	-	-	0.20	1.00	
空き店舗	0.08	1.00	-	-	5.75	23.00	6.00	30.00	
店舗分布状況	各類型の値								
	56%		0%		73%		73%		

験や歩行者のアクティビティ調査、店舗経営者や地権者の意識調査を行い通り抜け空間を活用する際の課題導出を図る必要がある。

補注)

- 1) 可動要素：通り沿いの住人や、店舗経営者によって置かれた空間構成要素で、右の表のように分類できる。
- 2) バス：通り抜け空間を交差点で分解したもの。
- 3) 店舗分布状況：通りの全出入口数に対する店舗の出入口の割合で、この割合が高いほど通り抜け空間が商業街路として使われていることがわかる。

	空間	例
営業要素	家主によって置かれた看板やフラッグ、また自動販売機といった敷外に置かれる要素	看板、自動販売機、フラッグ
設備要素	給湯器や室外機といった、建物の中での行為を補助するための機能を持つ要素。	かご、給湯器、業務用冷蔵庫、ゴミ箱、室外機、洗濯機、タオル干し、フロアパンダポンペ、物干し台
移動要素	自転車やバイクといった、住民が移動手段として使う要素。	原動機付自転車、自転車、車庫
荷物要素	住民や店主が建物内ではなく、通り抜け空間に保管の目的などで置かれる要素。	コンテナ、代車、機、段ボール箱、ちりと、ポリタンク、バケツ、はしご、ビールケース、ほうき、モップ
秩序要素	車止めやコーンといった、通り抜け空間の秩序を守るために置かれた要素。	車止め、コーン、段よけ水
休憩要素	住民や店主が通り抜け空間を憩い目的に使うために置かれたイスや反転などの要素。	イス、反転
植栽要素	住民や店主によって育てられている植栽の要素	プランター、プランター置き

【参考文献】

- 1) 渡辺聡、後藤春彦、三宅論、中村隆(2001)、商業地街路における歩行注視特性に関する研究-品川区戸越銀座商店街のビデオ映像を用いた分析-、日本都市計画学会発表論文集、36巻 p769-774
- 2) 佐藤敦、有馬隆文、荻島哲、坂井猛(2004)、店舗の構えの特徴と商店街の魅力に関する研究、日本建築学会計画系論文集、No. 582, p87-92
- 3) 渡辺直、北原理雄(2000)、街路空間のオープンカフェ利用の試みに関する研究-広島市平和大通り、横浜市鶴見駅西口の事例を通して-、日本都市計画学会発表論文集、35巻, p1105-1110
- 4) 志賀正規、本田あす香、出口敦(2000)、公共空間における露店・屋台等の占用の課題と実態-公共空間における占用と賑わいの関係に関する研究- その 1-2、日本建築学会大会学術講演梗概、F-1 分冊, p925-928
- 5) 東郷哲史、佐藤誠治、小林祐司、姫野由香、清水弘樹(2009)、中心市街地における歩行者の回遊行動誘発空間に関する研究-大分県別府市中心部を事例として-、日本建築学会九州支部研究報告集、2008, p473-476

* 大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 ** 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)
 *** 大分大学理事・副学長 教授 工学博士

*Graduate Student, Oita Univ
 ** Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng. Oita Univ., Dr.Eng
 *** Vice President, Professor, Oita Univ., Dr.Eng.